

元気を出しなさい 使徒 27:1-44

「ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりにになると、私は神によって信じています。」²⁵

パウロがローマに行く時が来ました。百人隊長はパウロを船に乗せ出港。航海は危険な時期にはいつていました。船は、向かい風が強くなり一時良い港に寄港しなければなりません。パウロは、このまま進めば荷物もいのちの危険もあると注意しました。しかし、百人隊長は早く行きたいと願う大多数の意見。航海士や船長の意見を受けて強行。船は、パウロの警告通り暴風に遭い荒波に翻弄。14日間漂流しました。絶望の中四人パウロは立ち上がって「元気を出しなさい。」と呼びかけました。何故呼びかける事ができたのでしょうか。

I. いのちを失う者はない 「しかし、今、お勧めします。元気を出しなさい。あなたがたのうち、いのちを失う者はひとりもありません。失われるのは船だけです。」

神が、「いのちを失う者はない」「ひとりもない」との約束を与えられたからです。パウロへの約束は◆**恐れてはいけません**という約束でした。「**恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。**」神は、約束が必ず実現する事を重ねて明らかにされました。重ねてというのは、ローマでも証ししなければならぬとの約束がすでに与えられていたからです。恐れは、信仰の敵です。いのちを失う恐れは、誰にでもできます。乗船者は、遭難後三日間、太陽も星も見えず激しい暴風の中最後の望みも絶たれ、死を覚悟しなければなりません。その原因の一つは、百人隊長がパウロのことばより、航海士や船長(専門家)を信用した結果でした。人の意見は大事です。しかし、絶対ではありません。百人隊長は、先に進むか、留まるかを大多数の意見、人の意見によって判断したのです。いつも人を恐れる人は、わなにかかります。しかし、主を信頼する者は守られるとみことばにあるとおりです。パウロは、神の約束を信頼しました。神が「あなたは必ずカイザルの前に立ちます。」とのみ言葉を信じて疑わなかったのです。また、パウロへのもう一つの約束は、◆**あなたにお与えになった**という約束でした。「**そして、神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。**」²⁴ 神は、いのちを失う者はない。何故なら、わたしがパウロの手にみなこのいのちを与えられたからと告げられたのです。いのちを握っているのは誰でしょう。航海士でも船長でも百人隊長でもまた、自分自身でもありません。すべての人のいのちを握っておられるのは神です。その神がパウロにみなこのいのちを、あなたに与えられたと約束されパウロは信じたのです。ヨブは、大切な家族を失い、財産を失った人です。しかし、彼は知っていました。いのちを握っておられるのは神であることを。「私は裸で母の胎から出て来た。また、裸で私はかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。」ヨブ 1:21 私達も神のことばを信じて元気を出しましょう。いのちを握っておられる神に委ねましょう。

II. すべて告げられたとおりになる 「ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりにになると、私は神によって信じています。」

何故パウロは、元気を出しなさいと言う事ができたのでしょうか。神がすべて告げたことは必ずそうなると信じたからです。だから彼は宣言しました。「**私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。**」²⁶ すべてを信じるためには、●**小舟を断ち切る**が必要です。「**そこで兵士たちは、小舟の綱を断ち切って、そのまま流れ去るのに任せた。**」³² 十四日目の夜、水夫達は陸地に近づいている事を感じた時、こっそり小舟を出して逃げようとしていました。これを知ったパウロは、これをとどめました。何故でしょう。小舟は、人間が考えた逃げ道であり、神の約束を無にするものだからです。もし、水夫たちだけが逃げ出したことが乗船者に知られたなら、船はパニックになります。そして一斉に皆が逃げ出そうとします。それは、神の方法ではありませんでした。「**パウロは百人隊長や兵士たちに、「あの人たちが船にとどまっていなければ、あなたがたも助かりません。」と言った。**」³¹ みな助かるためには、小舟の綱を断ち切るが必要でした。私たちにとって、小舟は何でしょうか。お金でしょうか。仕事でしょうか。あなたの計画でしょうか。もし、それが神の約束の妨げとなるなら私達は勇気をもって小舟を断ち切りましょう。さらに、すべてを信じるためパウロは、●**食事を勧めました**「**ですから、私はあなたがたに、食事をとることを勧めます。これであなたがたは助かることになるのです。あなたがたの頭から髪一筋も失われることはありません。**」³⁴ 船が難破して14日が経過し人々は、食事を取る事もできず疲れ切っていました。そこでパウロは、全員に食事を取る事を勧めました。それは、単に体力をつけるためだけでなく、ここまで導いて下さった神に聖餐をささげるためでした。パウロは、パンを取り、神に感謝をささげてから共に食べ始めました。「**こう言って、彼はパンを取り、一同の前で神に感謝をささげてから、それを裂いて食べ始めた。そこで一同も元気づけられ、みな食事をとった。**」^{36,37} その時、人々は元気づけられました。そして、パウロの言うとおりに神の約束の実現を体験することができました。「**こうして、彼らはみな、無事に陸に上がった。**」⁴⁴ 毎日予測できない様々な出来事の故に疲れている方もおられるでしょう。しかし、今日主は私たちに元気を出しなさいと励まして下さいます。何故なら、神の告げられたことはすべてそのとおりになるからです。私たちは、最後まで神の約束を信じる者とされましょう。God bless you.